

1 四日市市及び中心市街地の現状

四日市市の位置づけ

本市は、名前が示すように定期的に市場が立った「市」のまちであり、さらに東海道と伊勢街道が分岐する「日永の追分」を有する東西交通の要衝に位置し、東海道43番目の宿場町として栄えてきました。

現在も、東名阪自動車道及び伊勢湾岸道路、国道1号、23号などの広域幹線道路が整備された交通結節点となっており、「三重県の北の玄関口」とも言える場所に位置しています。今後、新名神高速道路や国道1号北勢バイパスなどの新たな道路整備や、リニア中央新幹線（東京 名古屋間）の開通などを見据えると、関西圏と中部圏をつなぐ本市の役割はさらに大きくなることが予測されます。

また、臨海部のコンビナートや内陸部の工業団地への企業立地が進んでおり、年間を通じてビジネス目的の来訪者が多数訪れています。さらに、近年は四日市周辺のみならず県内各地の観光資源を巡る拠点として本市の宿泊施設を利用する観光客も多く、広域移動の拠点（“ハブ”）としての機能もはたしています。

本市の中心市街地は、四日市近鉄百貨店や平成17年にリニューアルオープンしたラスクエアなど、大型商業施設が立地するほか、アーケードやカラー舗装のある商店街が広がるなど、三重県内最大の商業集積地となっていますが、郊外の大型小売店舗の進出やモータリゼーションの進展等を背景に、かつての賑わいが失われ、商業機能が低下しています。

しかし、秋の四日市祭りや大四日市まつり等、長い歴史と伝統を誇るイベントの開催や、平成15年に中心市街地の拠点施設であるすわ公園交流館を整備し、市民が主体となって様々な世代が参加する事業が展開されているほか、商店街組織が中心となって、近年、全国で取組みが広がる街コンが開催される等、中心市街地活性化に向けた様々な趣向を凝らしたイベントが開催されています。

中心市街地には様々な公共施設、文化施設等の市民生活や市民活動を支える施設が多数立地しているほか、国道1号、中央通り、三滝通りなどの幹線道路が整備され、近鉄四日市駅、JR四日市駅が立地した交通の結節点となっていることなど、様々な都市基盤が集中する、利便性の高い地域です。この既存の資源を有効活用し、賑わいのあるまちとして維持・発展させていくとともに、観光や文化活動等の拠点として、市内外からも多くの人々が訪れていることを活かし、まちの“顔”にふさわしい中心市街地の魅力を高めていくことが必要です。

人口・世帯数

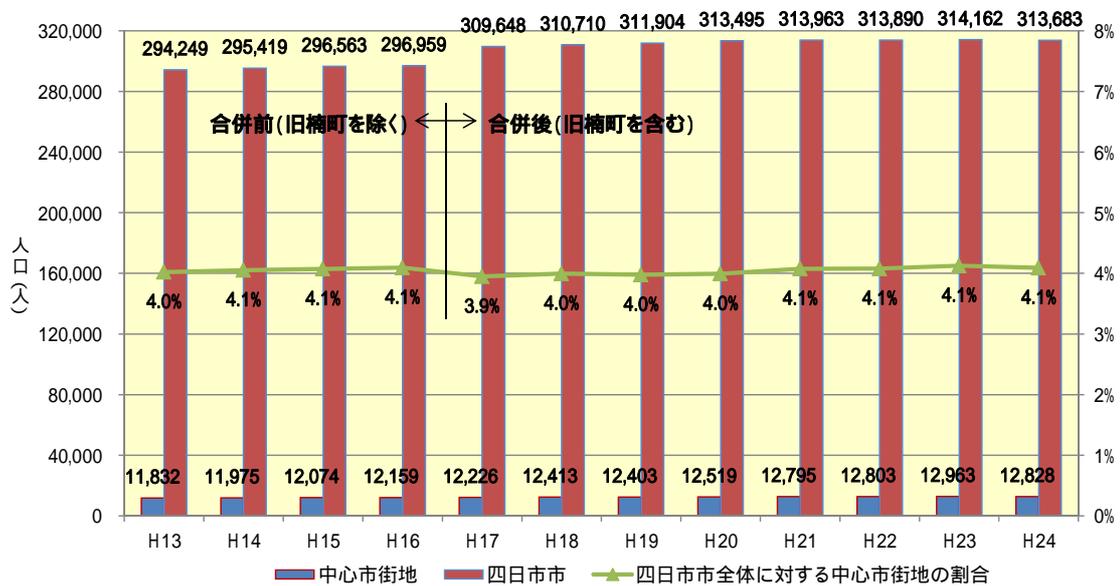
四日市市全体の人口は増加傾向にありましたが、平成21年ごろから横ばいとなっています。一方、中心市街地はわずかながら増加傾向にあり、平成13年と比較すると、平成24年は12,828人で8.4%増加しました。

世帯数は、四日市市全体、中心市街地ともに一貫して増加傾向にあります。

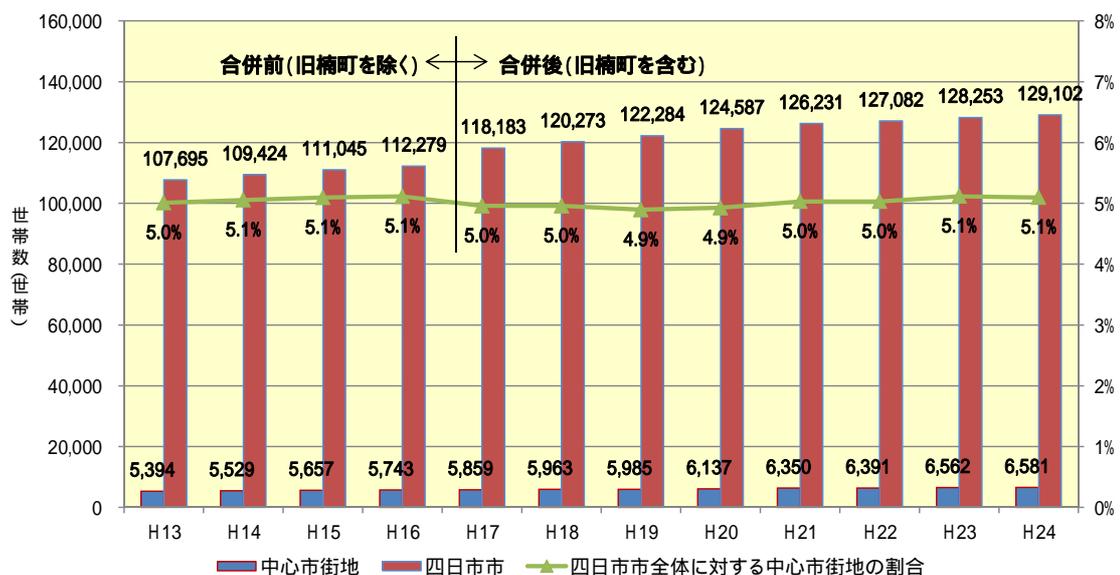
このため、世帯あたり人員は四日市市全体、中心市街地ともに減少傾向にあり、中心市街地では、平成23年には2人/世帯を下回っています。

図. 中心市街地と四日市全体の人口・世帯数・世帯あたり人員の推移 (各年4月1日現在)
中心市街地は現行計画の区域に含む町別人口の合計

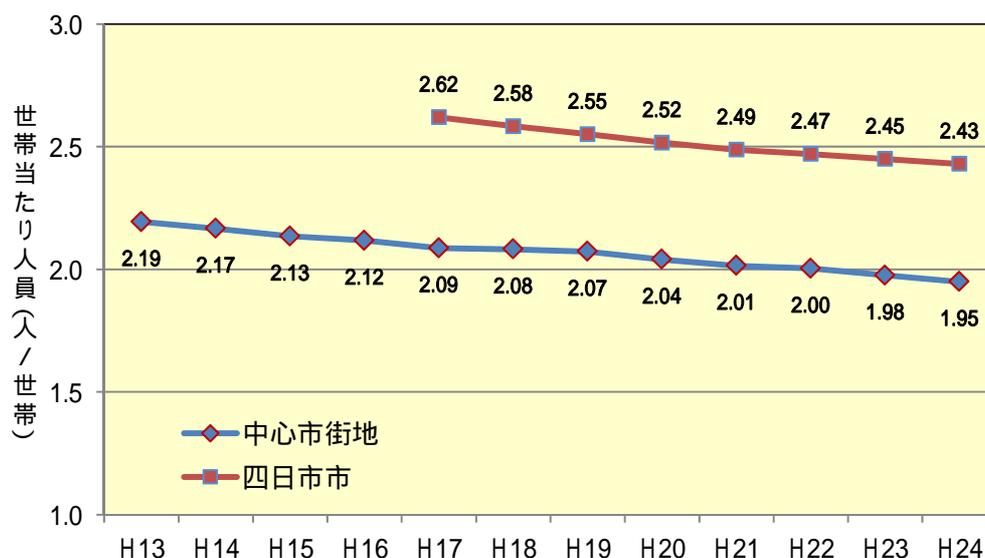
【人口】



【世帯数】



【世帯あたり人員】



資料：以上、住民基本台帳、外国人登録人口

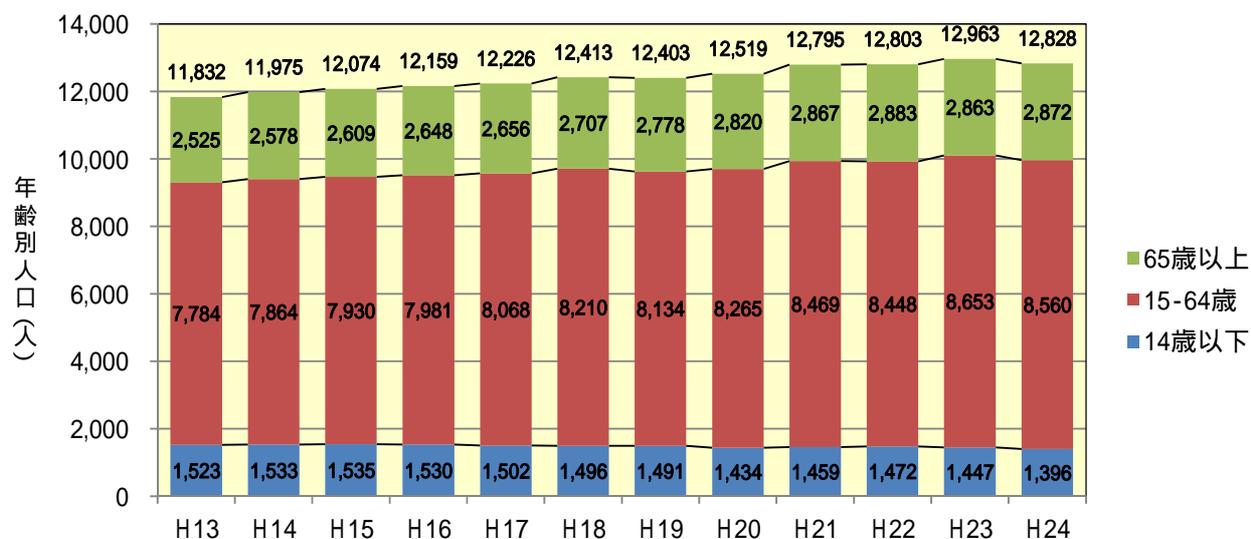
年齢別人口

平成 13 年度以降、中心市街地では 65 歳以上の高齢者人口、15 歳から 64 歳の生産年齢人口は増加傾向にあり、14 歳以下の年少人口は若干の減少傾向になっています。

65 歳以上の高齢者人口割合は、四日市市全体では 16% から 21% に増加していますが、中心市街地では 22% 前後となっており、市全体の平均より高い水準でほぼ横ばいとなっています。

図. 中心市街地の年齢三区分別人口の推移（各年 4 月 1 日現在）

中心市街地は現行計画の区域に含む町別人口の合計

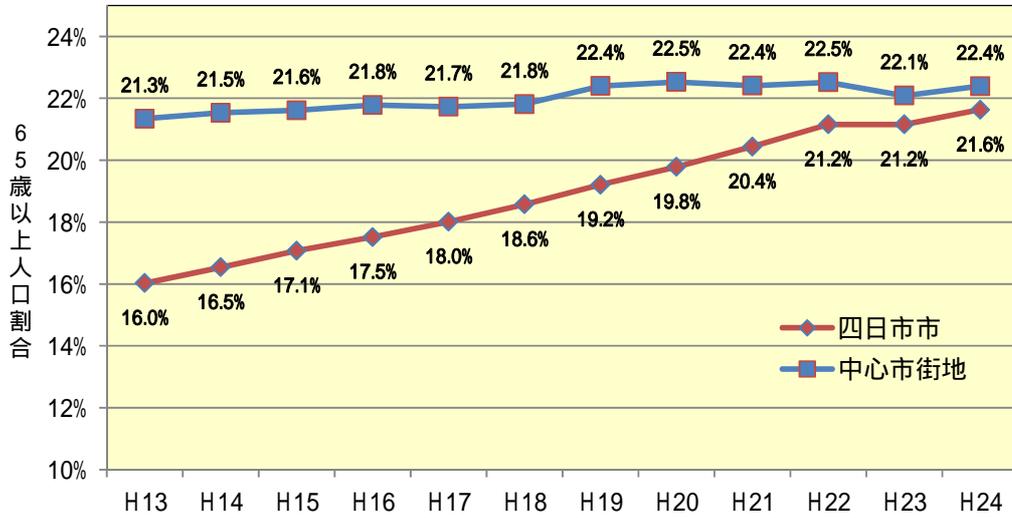


資料：住民基本台帳、外国人登録人口

図. 中心市街地と四日市全体の 65 歳以上人口割合の推移 (各年 4 月 1 日現在)

中心市街地は現行計画の区域に含む町別人口の合計

四日市全体の H13 から H16 は旧楠町分を除く

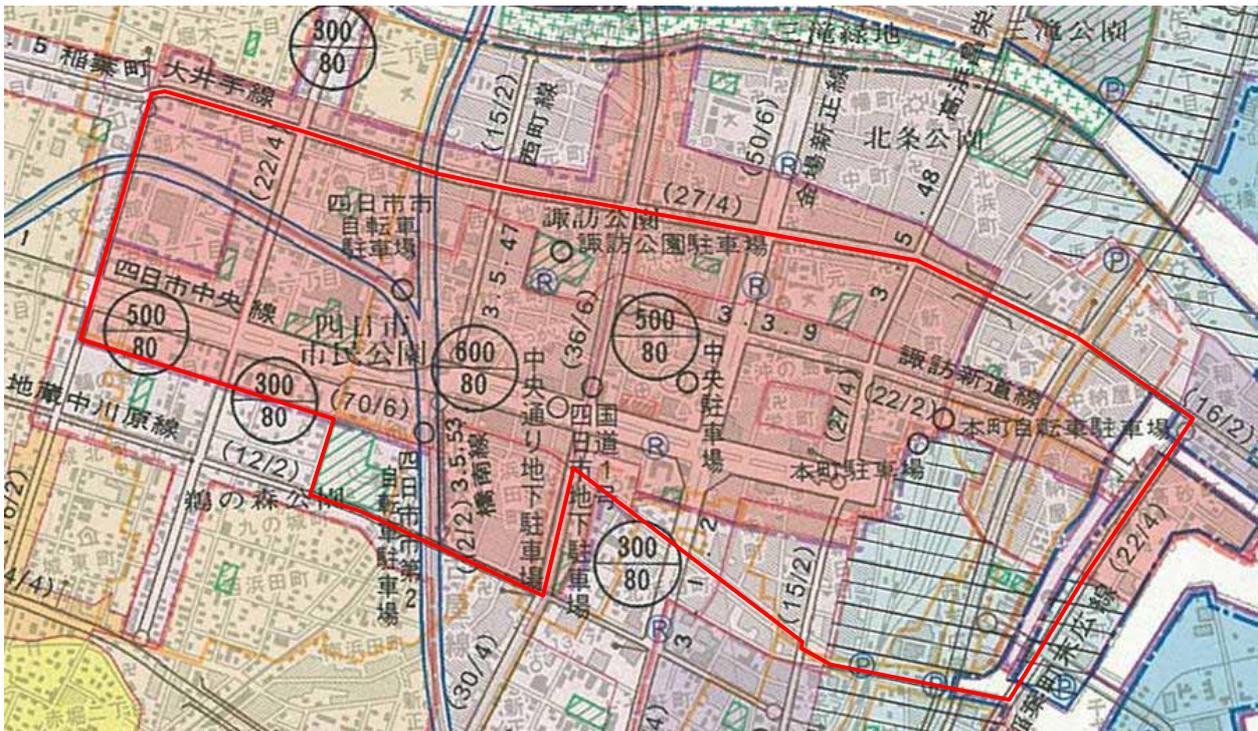


資料：住民基本台帳、外国人登録人口

都市計画

中心市街地の用途地域は、大半が商業地域であり、一部は近隣商業地域になっています。また、中央通り沿道を中心に、一部の地区は防火地域に指定されているほか、JR四日市駅構内付近は工業地域となっています。

指定容積率は、近鉄四日市駅東側の商業地域は 500%、600%に指定されています。近隣商業地域については、商業地域南側は 300%、北側は 200%に指定されています。



資料：四日市市都市計画図(概要図)【一部加工】

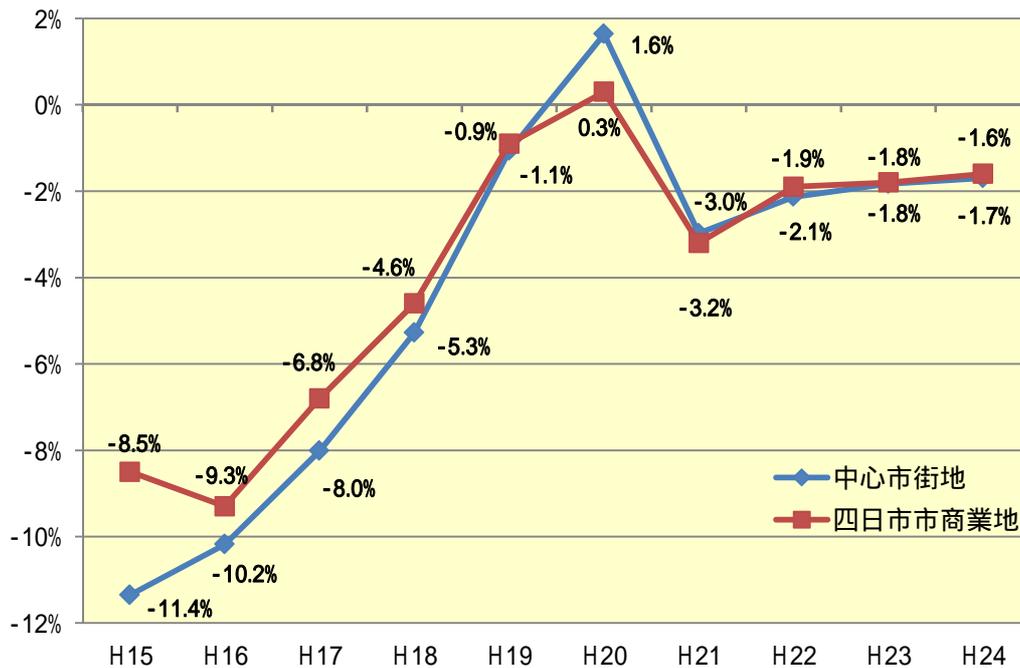
地価

中心市街地の地価は、概ね近鉄四日市駅付近を中心として高くなっています。

近鉄四日市駅東口付近が 345,000 円/㎡となっているのに対し、J R 四日市駅東側では 56,700 円と約 6 倍の差があります。

平成 15 年以降の対前年変動率は、マイナス変動が続いており、平成 20 年には一旦プラス変動で地価の上昇が見られたものの、それ以降は再びマイナス変動が続いています。

図 . 中心市街地と四日市市商業地の地価対前年変動率の推移



中心市街地は、地価公示、三重県地価調査を含めて、H15 からH24 まで調査されている中心市街地内の地点における対前年変動率の平均

四日市市は三重県地価調査における商業地の対前年変動率の平均。ただし、H15 からH16 は旧楠町分を除く

資料：地価公示、三重県地価調査

商店街

中心市街地内の商店街としては、「四日市一番街商店街」「四日市諏訪商店街」「四日市諏訪西商店街」「四日市本町通り商店街」の4つの振興組合があります。

このほか、通り単位で組織された発展会等や、複数の商店街振興組合等が加盟する諏訪栄町地区街づくり協議会といった商店街組織が存在します。

図. 中心市街地の主な商店街等の位置

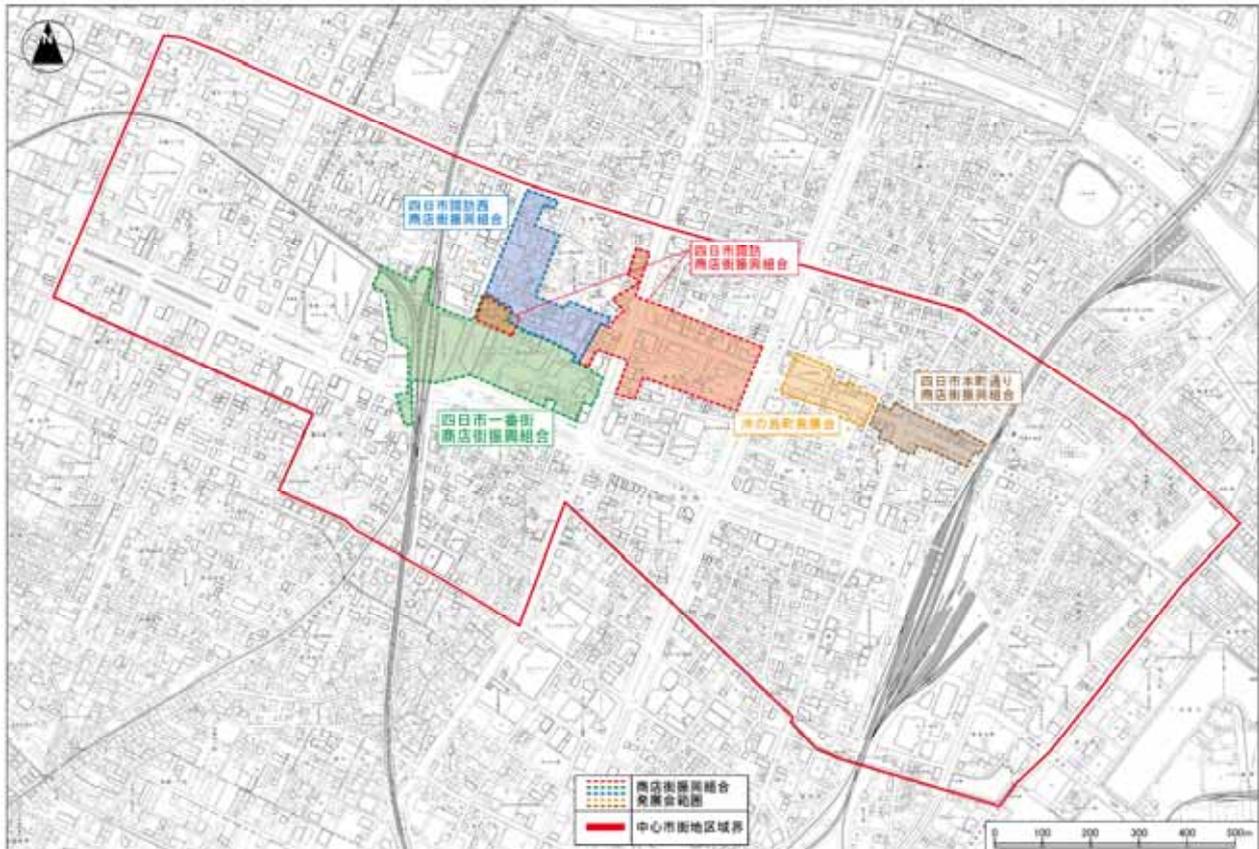


図. 中心市街地の商店街組織一覧

商店街振興組合		発展会等	
1	四日市1番街商店街振興組合	1	四日市駅西発展会
2	四日市諏訪西商店街振興組合	2	グリーンモ-ル発展会
3	四日市諏訪商店街振興組合	3	スワ栄発展会
4	四日市本町通り商店街振興組合	4	2番街発展会
		5	3番街発展会
		6	諏訪公園通り発展会
		7	すずらん通り発展会
		8	表参道スワマエ発展会
		9	1号線商店街
		10	呉服町発展会
		11	諏訪新道発展会
		12	沖の島町発展会
		13	新丁通り発展会

資料：四日市商店連合会加盟組織一覧をもとに四日市市作成

主な施設の立地状況

[窓口サービス・金融機関]

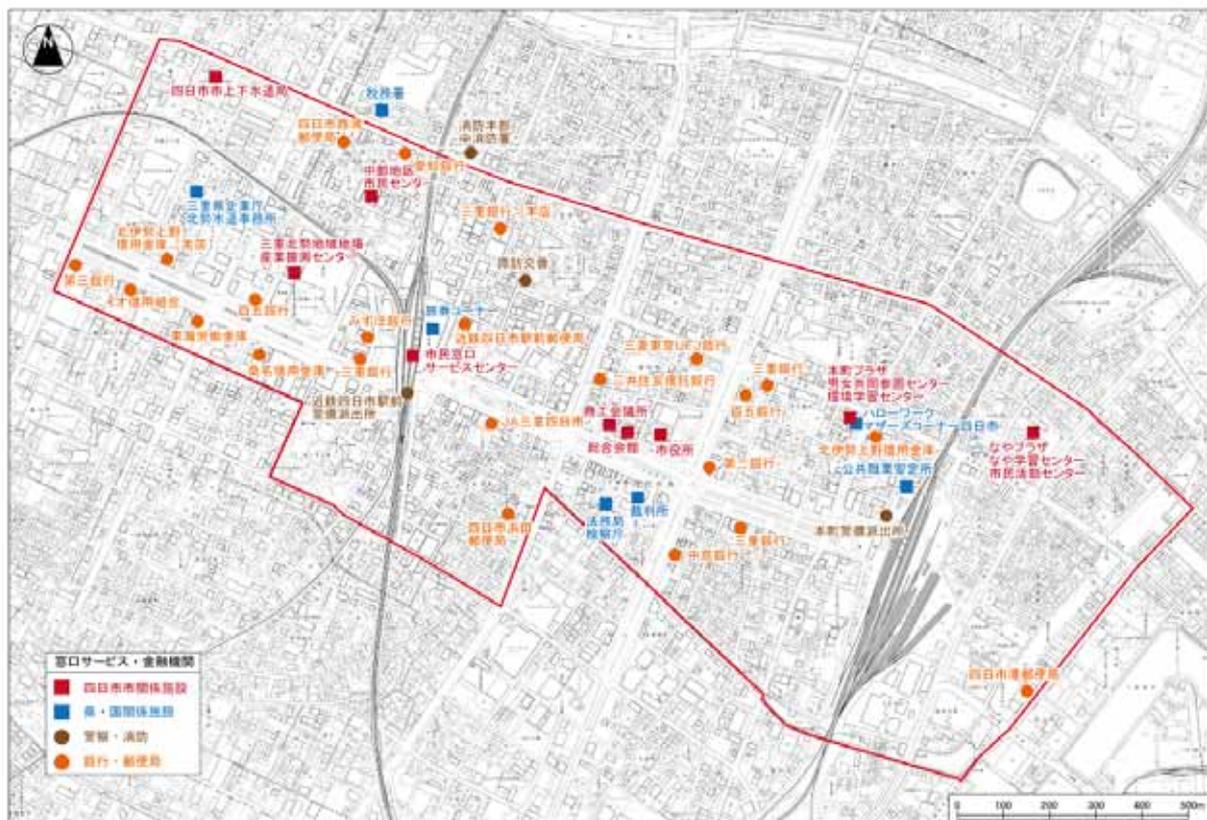
四日市市役所及び総合会館が近鉄四日市駅とJR四日市駅の間付近に位置しているほか、中部地区市民センターが近鉄四日市駅北西側に、市民窓口サービスセンターが近鉄四日市駅に立地しており、行政サービスの拠点が集まっています。

中央通りの市役所向かいには、裁判所・検察庁・法務局が立地しているほか、公共職業安定所（ハローワーク）はJR四日市駅付近に立地し、本町プラザにはマザーズコーナー四日市（ハローワーク四日市職業紹介分室）を開設しています。

警察の交番は諏訪公園に、警備派出所は近鉄四日市駅及びJR四日市駅に、消防は中心市街地北側隣接地に本部が設置されています。

銀行や郵便局等の金融機関は、中心市街地のほぼ全域に立地しています。

図. 窓口サービス、金融機関等の位置



[福祉・医療・教育施設]

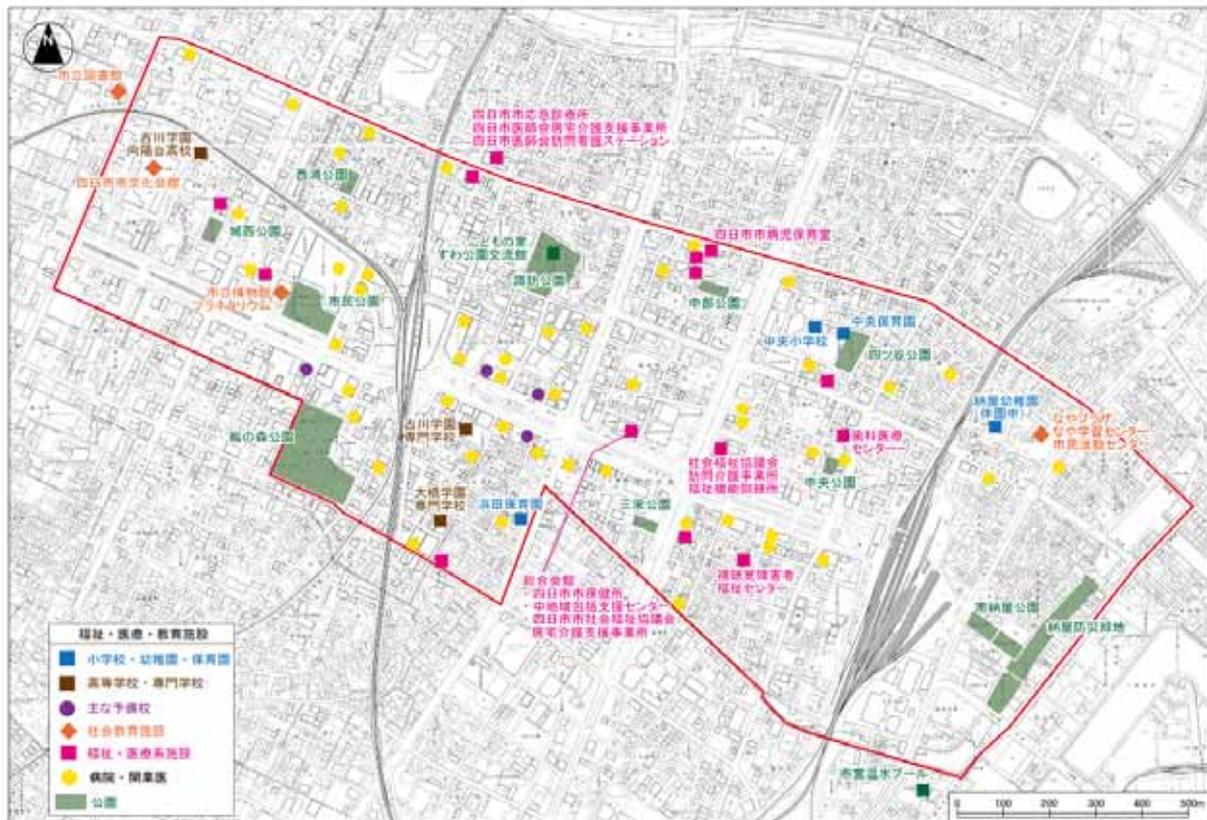
中心市街地内には小学校や幼稚園、保育園が立地していますが、いずれも近鉄四日市駅東側に立地しています。

その他に、専門学校も複数立地し、また近鉄四日市駅付近には予備校も多く立地しています。

福祉・医療施設では、市役所に隣接する総合会館が福祉・保健・教育のセンター機能を有しており、保健所や包括支援センター等の機能も有しています。その他に、中心市街地内には老人保健施設、介護支援施設等の福祉施設や医療施設が立地しています。これらも近鉄四日市駅からJR四日市駅の間のエリアに立地しています。

公園については、諏訪公園・鶴の森公園・市民公園をはじめとして、街区公園や防災緑地が設置されています。

図. 福祉・医療・教育施設の位置



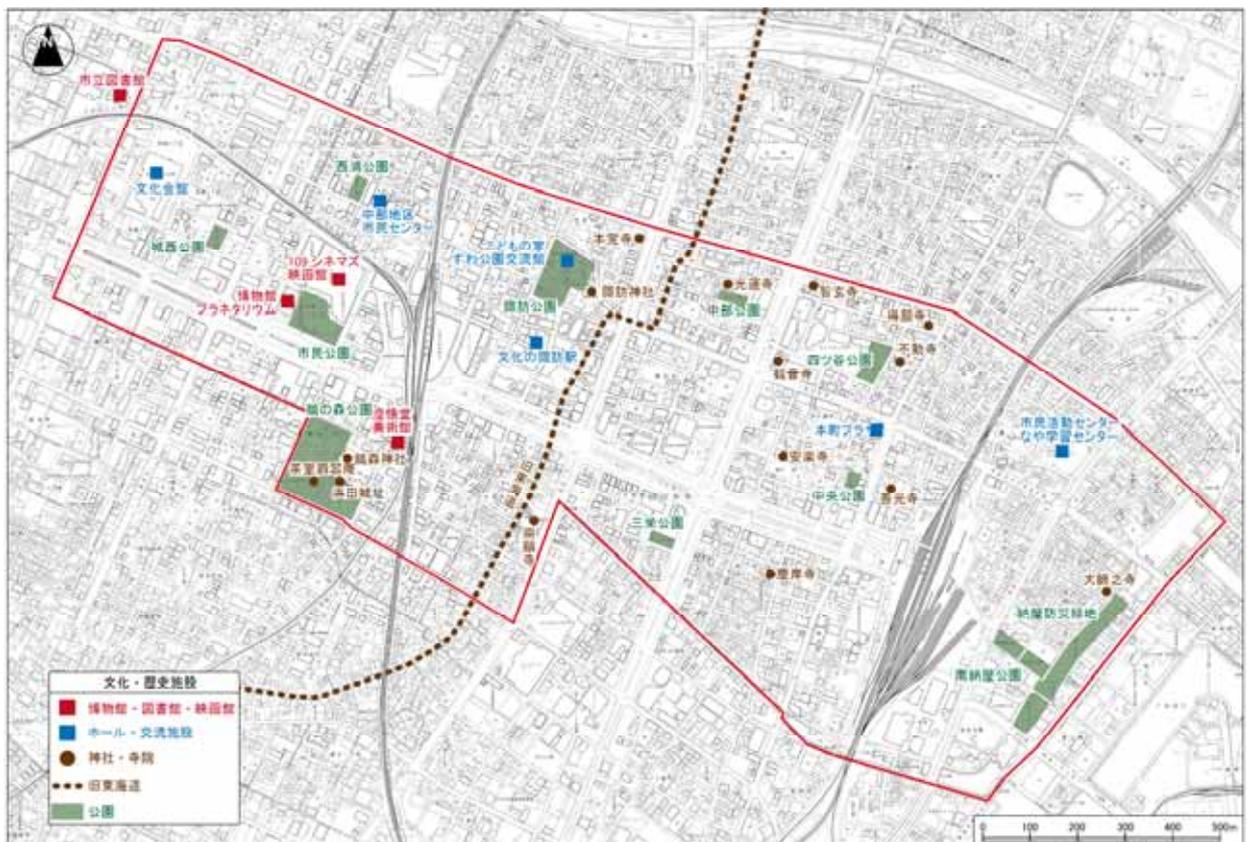
[文化・歴史施設]

近鉄四日市駅西側には、文化会館、博物館、図書館などの文化施設が立地しています。また、ララスクエアには映画館が立地しています。

市民活動を支える交流施設は、文化会館、地区市民センター、すわ公園交流館、文化の諏訪駅、本町プラザ、なやプラザなどが立地しています。

中心市街地のほぼ中央には旧東海道が縦断しているほか、諏訪神社のほかに東海道からJR四日市駅にかけて神社・寺院が多く立地しています。

図.文化・歴史施設の位置



[商業・宿泊・交通施設]

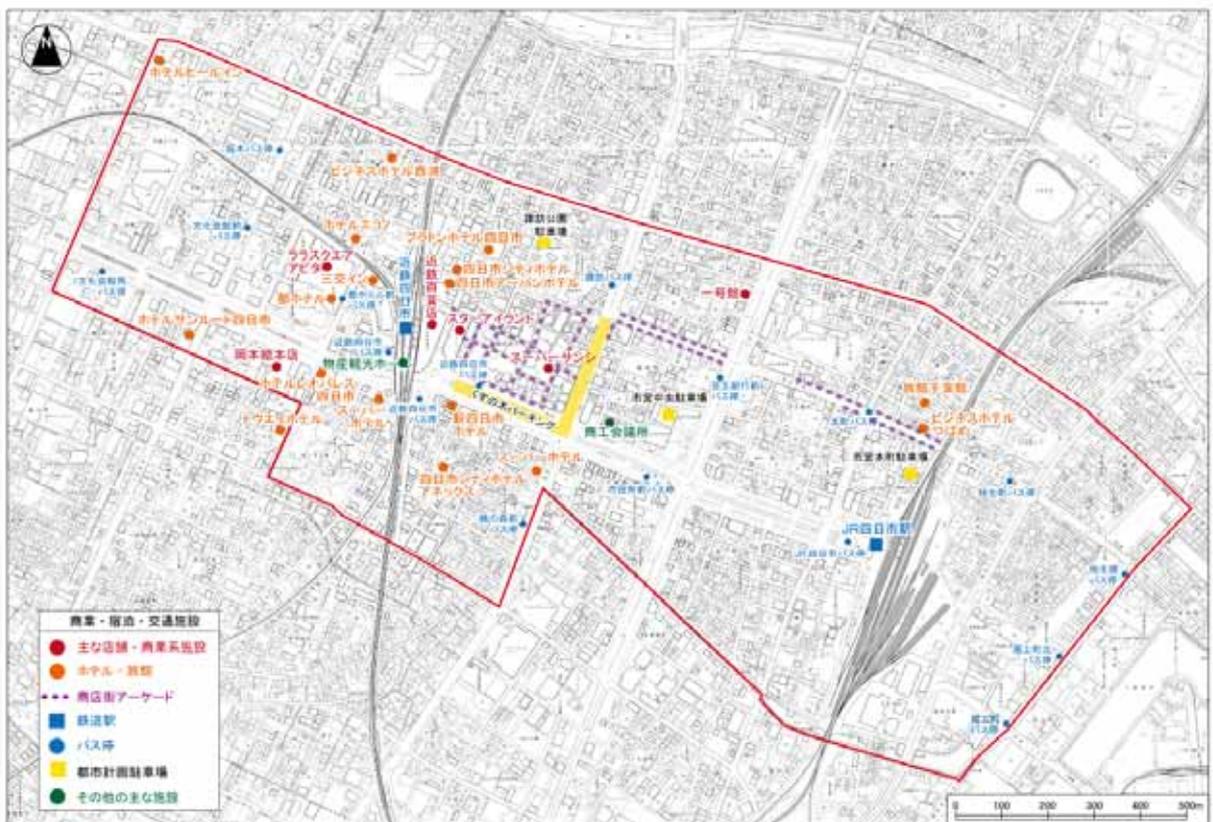
中心市街地には、ララスクエア、近鉄百貨店、スターアイランド、岡本總本店（家具店）の大規模小売店舗が立地しています。その他、食料スーパーのサンシ、一号館が立地しています。これらの多くは、近鉄四日市駅付近に立地しています。

諏訪栄町の商店街にはアーケードが面的に設置されており、カラー舗装も施されています。

近鉄四日市駅付近を中心に、シティホテル、ビジネスホテルが多く立地しています。

交通施設としては、鉄道駅その他、バス停が10箇所以上、都市計画駐車場が5箇所設置されています。

図. 商業・宿泊・交通施設の位置



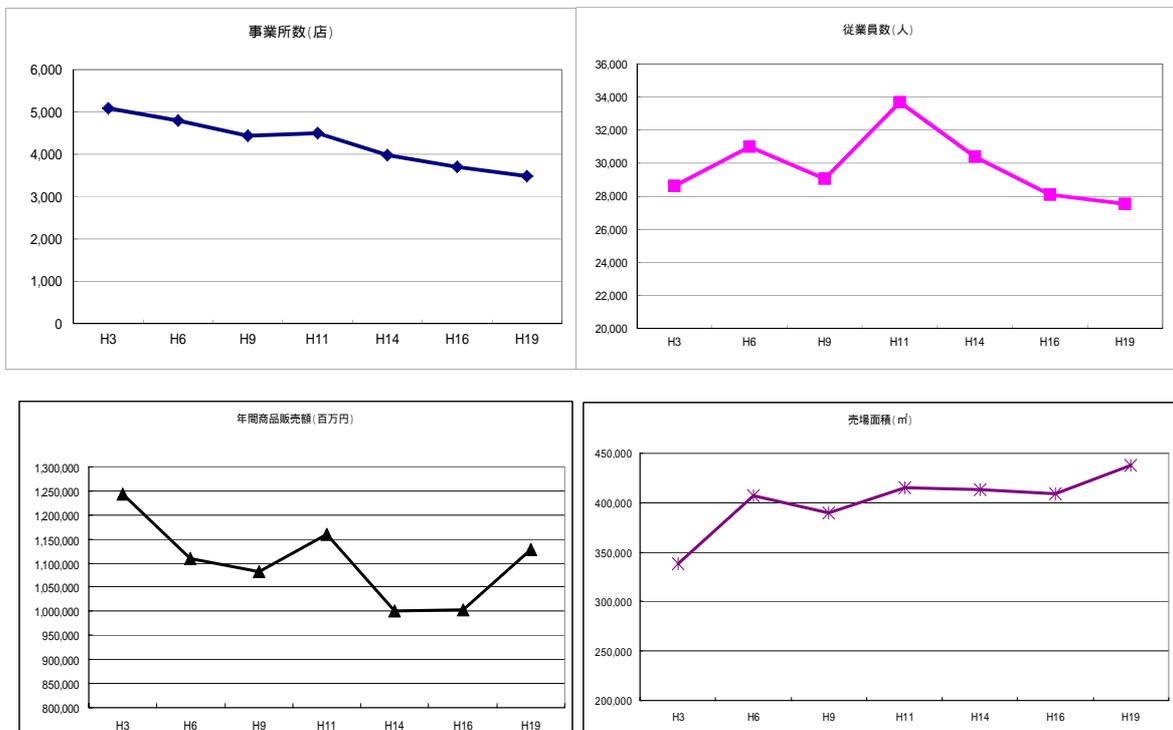
商業集積状況

市内全域の商業の状況をみると、事業所数は一貫して減少傾向にあり、従業員数も減少傾向が続いています。他方、年間商品販売額は平成 19 年に大きく回復し、平成 9 年の水準を上回ったほか、売場面積も上昇傾向が続いています。このことから、大型店が増えた結果、商業規模は一定の回復を見せているものの、小規模店の減少が進んでいることが伺えます。

中心市街地の商業集積地区に絞って近年の動向を見ると、年間商品販売額は区域により増減がありますが、大部分の地区で事業所数、従業者数は減少しています。

近鉄四日市駅西側の安島商業区域においては、平成 17 年に大規模小売店舗「ララスクエア」がリニューアルオープンしたため、事業所数、従業者数、年間商品販売額がいずれも増加しています。

図. 市内全域の事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移



資料：商業統計調査

図. 商業集積地区の事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移 は増加 は減少

中心市街地の商業集積地区	事業所数		従業者数(人)		年間商品販売額(百万円)	
	H16	H19	H16	H19	H16	H19
西浦堀木商業区域	27	21	130	92	2,743	2,380
中浜田町浜田町商業区域	21	16	104	96	555	678
諏訪栄町商店街	202	167	1,424	1,186	40,596	37,223
西新地商店街	30	24	93	76	667	879
中部発展会	48	39	183	149	1,982	4,860
諏訪町商店街	45	34	138	83	1,311	917
三栄町, 北浜田町, 十七軒町商業区域	27	23	413	378	12,980	14,385
新町発展会	20	16	62	57	790	408
安島商業区域	26	50	115	600	2,669	7,819
中心市街地商業集積地区合計	446	390	2,662	2,717	64,293	69,549
四日市市合計	3,702	3,484	28,100	27,532	1,002,396	1,128,844

中心市街地に一部でも含まれる商業集積地区を抽出
 四日市市合計の値は商業集積地区以外も含む、H16 は旧楠町分も除く

資料：商業統計調査

図. 大型小売店の立地状況(市内:3,000 m²以上)

	店舗名	所在地	店舗面積
1	イオン四日市 北店	富州原町 221 他	37,763 m ²
2	近鉄百貨店 四日市店	諏訪栄町 7-34	30,721 m ²
3	イオン四日市 尾平店	尾平町 1805 他	28,901 m ²
4	日永カヨー	日永四丁目 1-49	23,216 m ²
5	パワーシティ四日市	泊小柳町 2-1	22,605 m ²
6	ララスクエア (四日市三井ショッピングセンター)	安島一丁目 92-12	19,100 m ²
7	岡本総本店 四日市本店	鷺の森一丁目 4-28	10,587 m ²
8	ヤマダ電機テックランド 四日市店 + ニトリ四日市店	十七軒町 201 他	10,444 m ²
9	スーパーサンシいくわ店 + ケーズデンキ四日市生桑パワフル館	生桑町字榎下 167-1	7,239 m ²
10	スターアイランド (近鉄四日市駅前店舗ビル)	諏訪栄町 6-4	7,040 m ²
11	ユーズ 大矢知店	大矢知町字斎宮谷 1749	5,611 m ²
12	マックスバリュ 生桑店	生桑町字桑花 154-1 他	5,459 m ²
13	カーマホームセンター 四日市泊店	泊小柳町 2-17	5,447 m ²
14	ドン・キホーテ 四日市店	西日野町字八幡 1608-1	5,345 m ²
15	フレスポ四日市富田	四日市市西富田町字大宮田 249 他	4,991 m ²
16	カーマホームセンター 四日市店	久保田一丁目 6-31	4,527 m ²
17	カネスエ 日永店 (日永ショッピングセンター)	日永西三丁目 3597-1	3,745 m ²
18	ピアゴ 阿倉川店	阿倉川町 15-27	3,590 m ²
19	ピアゴ 久保田店	久保田一丁目 3-25 他	3,581 m ²
20	マックスバリュ 大矢知店	四日市市大矢知町字下沢 979 他	3,261 m ²
21	エイデン 四日市南店	四日市市日永四丁目 1887 番 3 他	3,140 m ²
22	コジマ NEW四日市店	四日市市新正 1 丁目 2462-1 他	3,000 m ²
		計	249,313 m ²

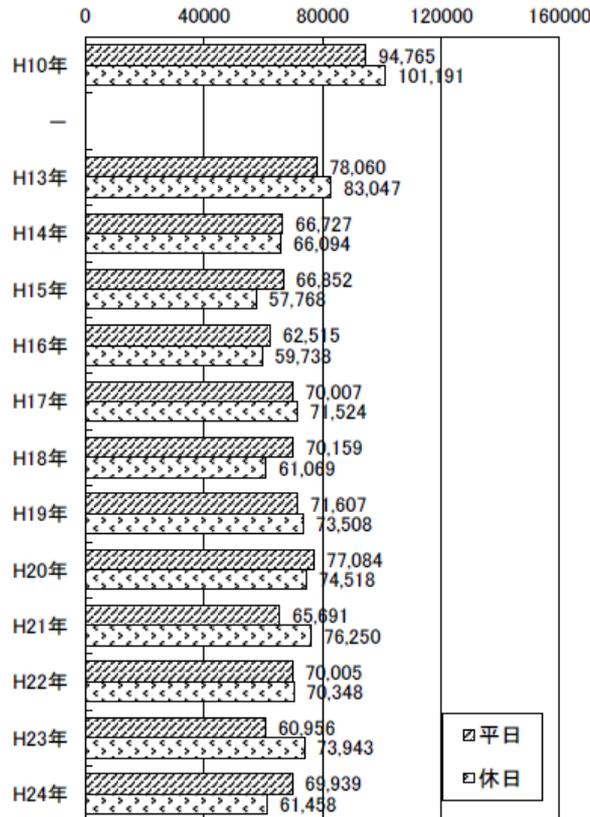
資料：四日市市

歩行者流量

年次推移をみると、近鉄四日市駅北口、近鉄四日市駅西側のララスクエア付近は、ララスクエアのリニューアルオープンの効果により平成 17 年以降は急激に増加しています。その他の地点は、概ね平成 18 年までは減少傾向にありましたが、その後、微増から横ばい傾向になっています。

時間推移は、平日は 18～19 時の通行量が最も多く、休日は 12～13 時の通行量が多くなっています。

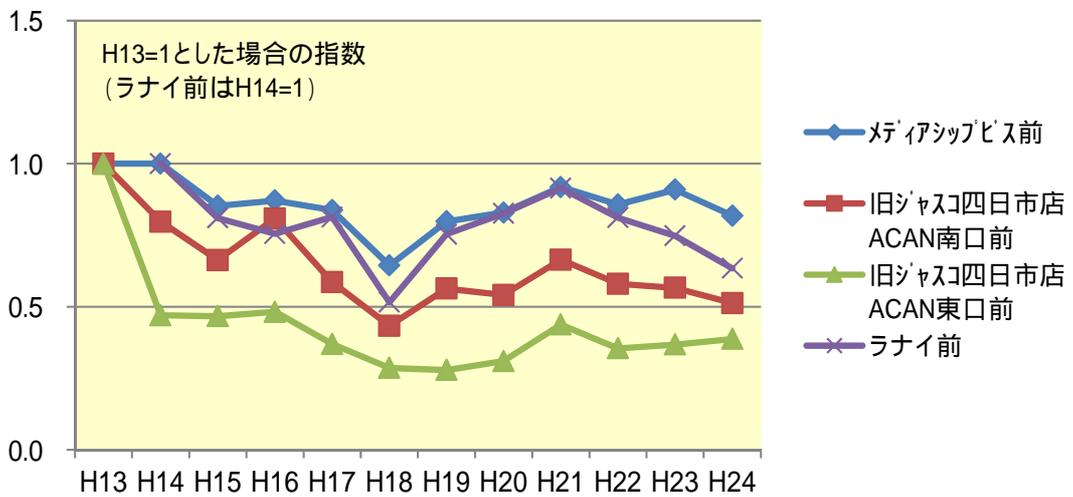
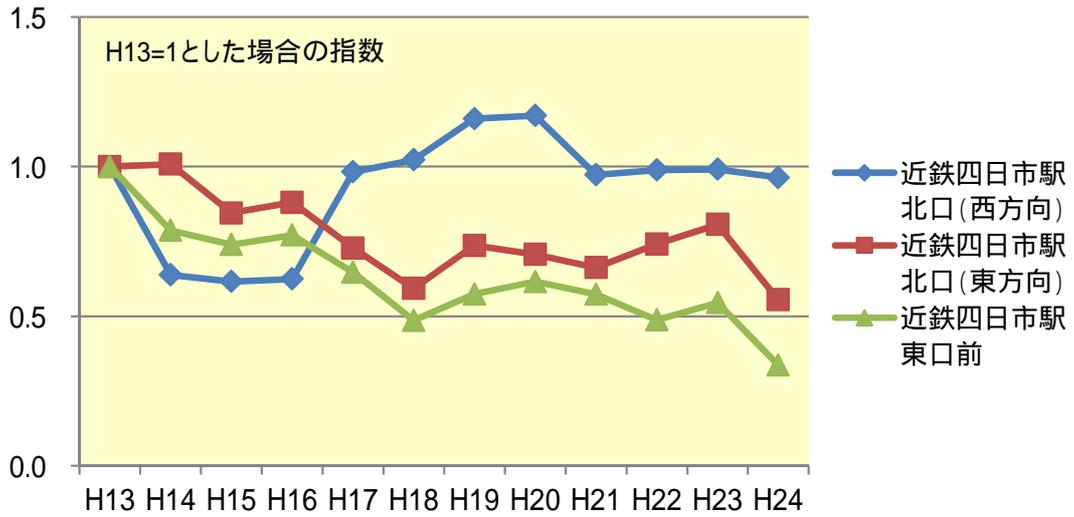
図. 歩行者流量(全調査地点 13 カ所の合計)の推移



資料：四日市市歩行者流量調査

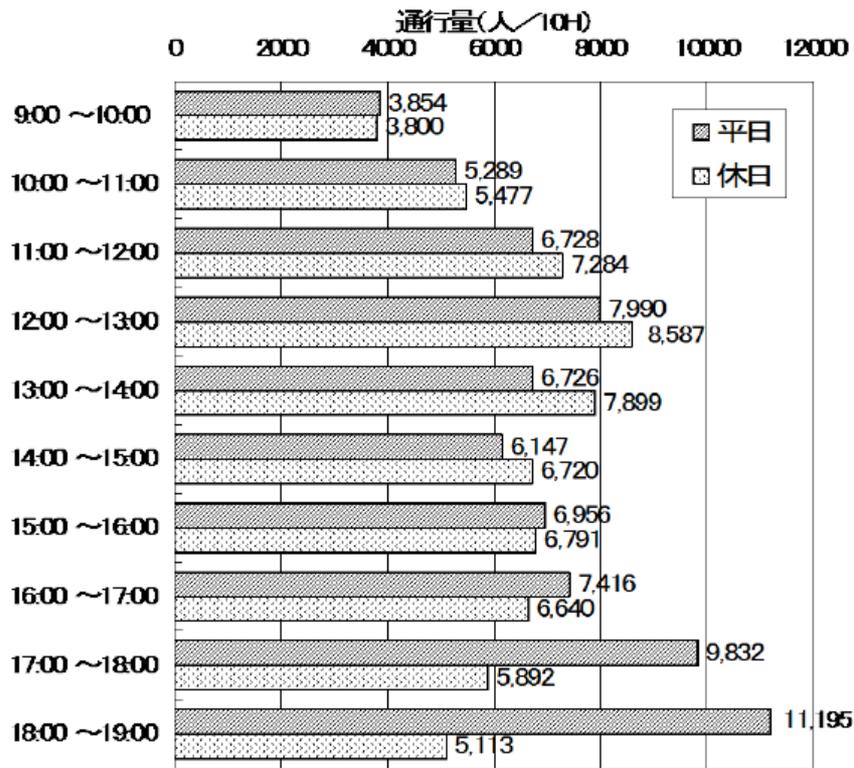
図. 地点別歩行者流量の推移(休日)





資料：四日市市歩行者流量調査

図.平成 24 年 11 月の歩行者流量



【調査日】平成 24 年 11 月 9 日 (金) 晴れ
平成 24 年 11 月 11 日 (日) 雨

【調査時間】9 : 0 0 ~ 1 9 : 0 0 (1 0 時間)

【調査対象】中学生以上の歩行者 (自転車利用者も含む)

資料 : 四日市市歩行者流量調査

鉄道運行本数、近鉄四日市駅及びＪＲ四日市駅の乗車人員数

近鉄四日市駅は、名古屋本線の名古屋方面、伊勢中川方面、湯の山線の湯の山温泉方面、内部線の内部方面、八王子線の西日野方面に運行しており、平日で1日494本の電車が発着しています。

ＪＲ四日市駅は、関西本線の名古屋方面、亀山方面の他、紀勢本線に直通する伊勢鉄道線方面にも運行しており、平日で1日154本の鉄道が発着しています。

年間乗車人員数は、近鉄四日市駅は減少傾向、ＪＲ四日市駅はほぼ横ばいの状況です。ただし、定期券利用者以外はいずれも減少傾向にあります。

図. 近鉄四日市駅の鉄道運行本数（平成24年1月）

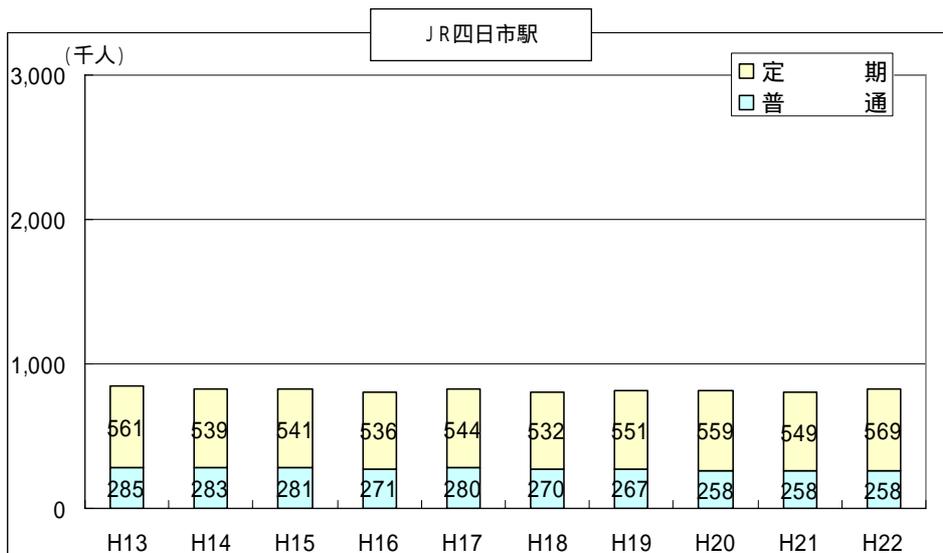
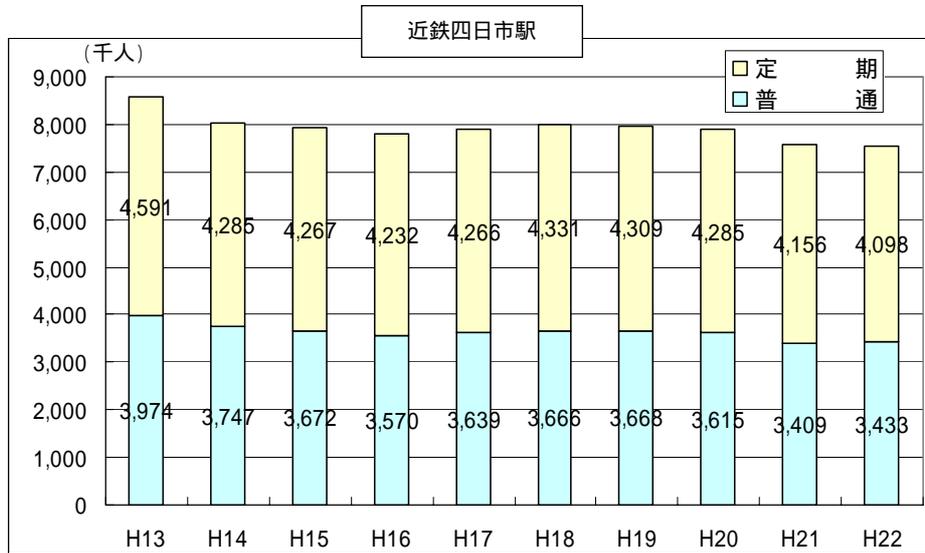
		平日	土曜	休日
名古屋 方面	特急	52	51	51
	急行	58	51	51
	準急	20	17	17
	普通	48	50	50
	小計	178	169	169
伊勢中川 方面	特急	56	56	55
	急行	57	54	54
	普通	70	68	68
	小計	183	178	177
湯の山温泉方面		58	54	54
内部・西日野方面		75	75	75
合計		494	476	475

図. ＪＲ四日市駅の鉄道運行本数（平成24年1月）

		平日	土曜	休日
名古屋 方面	特急	4	4	4
	快速	21	21	21
	区間快速	4	1	1
	普通	38	41	41
	小計	67	67	67
亀山 方面	快速	10	9	9
	区間快速	5	5	5
	普通	36	34	34
	小計	51	48	48
伊勢鉄道 津方面	特急	4	4	4
	快速	13	13	13
	普通	19	17	17
	小計	36	34	34
合計		154	149	149

資料：各社時刻表 より加工

図. 鉄道駅の乗車人員数の推移



資料：三重県統計書

路線バス

近鉄四日市駅からは23路線、平日で1日534本のバスが発着しており、四日市市内の各地域を結んでいます。また、中部国際空港、東京・大阪・福岡等の高速バスも発着しています。

JR四日市駅からは9路線、平日で1日150本の路線バスが運行されています。

三重交通の一部の路線では、バスの運行・接近情報を表示するバスロケーションシステムが導入されています。

図. 近鉄四日市駅発路線バス便数（平成24年1月現在）

近鉄四日市駅	運行事業者	平日	土曜日	休日
市立病院	三重交通	42	27	27
悠彩の里	三重交通	14	12	12
三重団地	三重交通	65	61	59
あがたハイツ	三重交通	28	27	27
福王山	三重交通	10	9	9
近鉄高角駅	三重交通	8	8	8
桜台	三重交通	5	4	4
桜リサーチパーク	三重交通	2	2	2
桜花台	三重交通	29	27	27
ガーデンタウン東日野	三重交通	17	13	13
笹川団地・笹川ジャブ・笹川テニス場	三重交通	65	60	58
医療センター・泊山	三重交通	13	12	12
宮妻口	三重交通	9	8	8
椿大神社	三重交通	7	7	7
高花台・小山田病院	三重交通	18	15	15
高岡台・鈴鹿市駅	三重交通	7	5	5
佐々木記念館・平田町駅	三重交通	11	8	8
和無田改善センター	三重交通	5	5	5
JR四日市駅	三重交通	71	65	65
市内循環	三重交通	3	0	0
四日市港	三重交通	22	6	6
Jヒルズ・東芝四日市・垂坂	三重交通	53	42	42
四日市大学・山城駅前	三岐鉄道	30	20	20
小計		534	443	439
中部国際空港	三重交通(高速バス)	9	9	9
横浜・東京	三重交通(高速バス)	1	1	1
横浜・東京・大宮	三重交通(高速バス)	1	1	1
福岡	三重交通(高速バス)	1	1	1
京都	三重交通(高速バス)	6	6	6
大阪	三重交通(高速バス)	6	6	6
小計		24	24	24
合計		558	467	463

資料：各社時刻表より加工

図. JR四日市駅発路線バス便数 (平成24年1月現在)

JR四日市駅	運行事業者	平日	土曜日	休日
市立病院	三重交通	26	13	13
近鉄四日市	三重交通	3	0	0
宮妻口	三重交通	9	8	8
椿大神社	三重交通	7	7	7
高花台・小山田病院	三重交通	16	15	15
福王山	三重交通	10	9	9
ガーデンタウン東日野	三重交通	27	13	13
四日市港	三重交通	22	19	19
四日市大学・山城駅前	三岐鉄道	30	20	20
合計		150	104	104

資料：各社時刻表より加工

図. 四日市市内のバス路線図 (平成24年1月現在)



出典：「路線図ドットコム」ウェブサイト

都市計画駐車場

中心市街地には、5つの自動車駐車場（合計1,173台）3つの自転車駐車場（2,383台）が整備されています。

「国道1号地下駐車場」及び「中央通り地下駐車場」は「くすの木パーキング」として運営されており、中心市街地の来街者にとって利便性の高い場所に位置しています。

都市計画駐車場の他、商店街や各店舗が独自に確保する駐車場が整備されているほか、空地等がコインパーキングとして利用されているところもみられます。

表. 中心市街地の都市計画駐車場

種別	名称	供用台数	都市計画決定	構造
自動車駐車場	中央駐車場	427台	S62.4.14	地上6層地下2層
	本町駐車場	95台	S59.7.26	地上3層
	諏訪公園駐車場	142台	S57.10.29	地下1層2段
	国道1号地下駐車場	203台	H6.4.27	地下2層
	中央通り地下駐車場	306台	H6.4.27	地下2層
自転車駐車場	四日市市自転車駐車場	730台	S54.2.24	広場式
	本町自転車駐車場	53台	S59.7.26	広場式
	四日市市第2自転車駐車場	1,600台	H8.4.247	地上2層

資料：四日市市

旧基本計画の取り組み効果の評価

旧基本計画における施策は、41 事業のうち、33 事業が完了または実施中となっています。未着手の事業については、実施主体間あるいは関係機関等との調整・協議が整わず、事業を進めることができなかつたものが中心です。

完了または実施中の事業について、代表的な取り組みの経緯とその成果は以下のとおりです。

- ・近鉄四日市駅西側の商業地域への新たな活力導入については、四日市工業高校跡地利用において、市が県有地を取得し、土地利用計画を定め、民間開発を事業コンペにより実施した経緯も踏まえ、松坂屋四日市店の閉店により一時休館となっていたアムスクエアの商業機能を強化するため、平成 16 年度から当該高次商業施設の事業者及びテナントに対する奨励措置（事業者が納付した固定資産税等の 1/2 に相当する額を奨励金として交付する）を設け、アムスクエアの大改装等の誘導に取り組んだ結果、アピタ四日市店、109 シネマズ四日市等の有力なテナントが入ったララスクエアが平成 17 年にリニューアルオープンし、駅西側に新たな人の流れが生まれて中心市街地のにぎわいの創出につながっている。
- ・長時間歩行が困難な方や高齢者にもゆっくりと買い物や散策を楽しんでいただけるよう、電動スクーターを利用した移動のバリアフリー社会実験を県とともに実施する等、タウンモビリティを推進してきたことを踏まえ、近鉄四日市駅のバリアフリー化事業にも取り組み、市が事業者に対して事業費の 1/6 を補助（このほか県が 1/6、国土交通省が 1/3 を補助）することにより、駅構内のエレベーターや、障害者対応型トイレが設置され、高齢者や身体障害者等に対する利便性の向上が図られている。
- ・諏訪公園内拠点施設整備事業については、歴史的な外観を有する建造物（旧市立図書館）を中心市街地内の交流拠点として有効活用し、かつ、諏訪公園と一体的に利用できるようにするため、(1)市民ワークショップ等における幅広い議論の実施、(2)様々なイベントの担い手の公募など、市民が主体となった継続的な事業運営の仕組みを十分検討したうえで旧基本計画に盛り込み、経済産業省の補助（1/2 補助）も活用して「すわ公園交流館」を整備した結果、様々な世代が楽しめるイベントが開催されるようになり、中心市街地活性化の重要な拠点となっている。
- ・再開発事業や都心居住促進モデル事業等の成果として複数のマンション建設が進み、まちなか居住者の人口は 11,832 人（平成 13 年）から 12,963 人（平成 23 年）と約 1 割増加している。

しかし、中心市街地の歩行者流量は平成 13 年に比べて減少していること、商店街の空き店舗数は 103 店（平成 13 年）から 78 店（平成 23 年）に減少しているものの、営業中の店舗数は平成 17 年以降減少に歯止めがかかっていないことなど、この 10 年間の施策が「まちの活性化」につながっているかについては不十分な面があり、商業機能や業務機能の衰退傾向は続いているといえます。

事業によっては十分な効果を発揮できなかったものがありますが、その理由は下記のようなものが挙げられます。

・ソフト事業の中には、短期的な取り組み、試行的な取り組みに留まったものも多く、実施効果が持続していない。
・諏訪栄地区の商店街では、飲食店への業種転換が進み、物販店のウェイトが低下した。
・意欲ある商業者、事業者による新しい取り組みを生かし、これを活性化の牽引役として活用するために必要な、各商店街組織等の連携、活動の蓄積が十分でなく、旧基本計画で掲げた中心市街地を自らマネジメントする母体づくりができなかった。

このため、旧基本計画の取り組みの視点である「既存の都市資源の質を高める」「商業の方向転換と新たな活力づくり」「持続的展開のための『仕組み』の構築」は、この 10 年間で十分に実現されたとはいえ、現状においても引き続き課題として残っています。

3 中心市街地を取り巻く課題

(1) 現状分析のまとめと中心市街地の課題

四日市市及び中心市街地の現状や旧計画の検証等から、中心市街地の活性化に向けた課題を以下のように整理します。

魅力と活力のある商業環境の整備

近鉄四日市駅西側における人の流れの維持・活用

- ・歩行者流量調査などをみると、来街者の多くは近鉄四日市駅西側のラスクエア方面に流れています。今後、この賑わいを維持しつつも、商店街をはじめとする東側の魅力向上を図り、来街者を誘引することが課題となっています。また、中心市街地における景観形成や安全性の向上などを進め、歩いて楽しい空間づくりを進めることが求められます。

魅力ある店舗や都市型産業の誘致

- ・中心市街地の商店街については、近鉄四日市駅周辺で飲食店が増加傾向にあるものの、物販店が減少しており、空き店舗率も一定の割合で推移しています。今後、魅力的な個店の誘致や出店への支援を行うことにより、魅力的な商店街づくりを進めるとともに、都市型産業や新たなサービス業など、商業以外の分野での空き店舗等の活用が求められます。

子育て世代や高齢者向けのサービスも提供できる商店街の魅力向上

- ・中心市街地の主な利用者は、居住者を含む高齢者や移動手段に限られる子育て世代が多くなっています。今後、高齢者及び子育て世代向けのサービスの充実を促すなどして、商店街全体の魅力向上を図ることが望まれています。

イベントの改善・強化、イベント間の連携強化

- ・近年、中心市街地では様々なイベントが開催され、多くの来街者で賑わっています。今後、これらのイベントをより一層魅力的なものにするため、改善・強化を図る一方、イベント同士の連携を図ることが課題となっています。

高度利用が可能な地域における空き地等の有効活用の促進

- ・中心市街地内にはかつての大型小売店跡地や火災跡地が空き地となっています。これらは、高度利用が可能な地域にあり、中心市街地の賑わいにつなげ、街並みの連続性を確保するためにも、地権者などに対して有効活用を促すことが求められます。

商店街の歩行・交通環境の改善

- ・アーケードが架かり、カラー舗装が施された商店街は、自動車の通行も規制されており、安全な歩行空間としてのメリットがあります。他方で、アーケードは建設から年数が経過しており、今後の対応を検討していく必要があるほか、土地利用、高度利用を促進するという観点から、アーケードをどうしていくべきかを検討する必要があります。また、アーケード内は自動車の通行が規制されていることから、現

在の車両の乗り入れルールの検証、商業施設の荷捌き対策、カラー舗装の今後の対応といった課題についても、アーケードとともに検討していく必要があります。

まちなか交流活動の促進

中心市街地における資源の充実と四日市全体の地域資源との連携強化

- ・中心市街地には旧東海道が通っているほか、日本を代表する港のひとつである四日市港が比較的近くにあります。また、市立博物館をはじめ、博物館内に整備が予定されている「(仮称)四日市公害と環境未来館」など複数の公的施設があります。今後、地域資源や施設の充実による中心市街地の機能強化を進めるとともに、市全体にある地域資源と連携した観光・レクリエーション機能の強化が求められます。

多数立地する宿泊施設を利用するビジネス来訪者・観光客のまちなかへの回遊性向上

- ・近年、臨海部のコンビナートや内陸部の製造拠点を訪れるビジネス客や、本市を拠点として三重県内の観光地を巡る観光客が増加傾向にあります。今後、これらの来訪者をターゲットとし、まちなかで回遊できるような仕掛けづくりが課題となっています。

まちの案内表示の充実など、四日市の玄関口にふさわしいおもてなしの強化

- ・現在、来街者に対する情報提供や中心市街地における案内表示は、それぞれの主体が進めているものの、統一感のある案内やおもてなしができていない状況にあります。今後、来街者に対する情報発信やおもてなしを一体的に取り組むことが望まれます。

文化関連イベント等の強化・拡充によるまちの魅力の向上

- ・宿場町や市のまちとしての歴史を持つ中心市街地では、多くの文化資源が継承されているほか、文化会館をはじめ中心市街地の各所でさまざまな文化関連イベントが開催されています。今後、まちの重要な機能の一つとして「まちなか文化」をより一層強化・拡充することで、中心市街地の魅力向上につなげることが求められます。

暮らしの環境整備

居住環境の整備による定住促進

- ・中心市街地における居住者は直近の10年間で1,000人程度増加しています。今後、まちなかにおける居住環境として重要な要素である利便性や安全性をより一層高め、居住者の増加を促すことが課題となっています。

まちの安全・安心の向上

- ・中心市街地には、夜間を中心とした飲食店も多く立地しており、市内外から多くの来街者が訪れることなどから、来街者にとっても居住者にとっても安全・安心に過ごせる空間にしていくことが求められます。

高齢者や子育て世代にとって住みやすい居住環境の確保

- ・交通や生活の利便性などの理由で多くの高齢者がまちなかに居住しています。また一方で、新しい集合住宅には子育て世代などの転入者もみられます。今後、高齢者

や子育て世代などに対して、住みやすいと感じられるよう、居場所づくりや子育て支援・教育などの施策・事業を推進し、居住環境を高めることが望まれます。

交通・移動環境の整備

環境にやさしいまちなか交通の確立

- ・近年、自動車利用を抑制し、環境配慮型の移動手段へのシフトが必要とされています。今後、安全性や快適性の確保に努め、これまで進めてきた自転車をはじめとする環境にやさしい移動手段への転換を図ることが課題となっています。

公共交通機関の利用促進

- ・中心市街地には近鉄四日市駅及びJR四日市駅があり、本市における交通結節点となっています。今後、中心市街地における移動快適性を高め、市民を含む来街者に対する公共交通機関の利用促進を図ることが求められます。

歩行者回遊性の向上によるにぎわいの拡大

- ・来街者や居住者にとって、中心市街地は歩いて楽しめるまちとして、安全・快適な空間であることが求められます。今後、舗装面などの景観づくりや交通安全への配慮を進め、来街者が中心市街地を楽しみながら回遊できるような環境整備が望まれます。